

隠岐を知り地球に出会う

OkiTオキドキimes

Vol.21

2024年 冬号

隠岐ユネスコ
世界ジオパーク



島前カルデラ

～自然と共に生きた先人の知恵～

島前カルデラ

～自然と共に生きた先人の知恵～

隠岐諸島の有人島3島からなる島前地域は、中央にそびえる焼火山を海が囲み、その外側を島々が取り巻く独特の地形をしています。この「島前カルデラ」と呼ばれる自然環境の中で、先人たちは知恵を凝らし、厳しい自然に適応しながら暮らしてきました。穏やかな湾で育まれる岩ガキ、航路の拠点として発展した港、自然と調和した「牧畑」という持続可能な農法——地形が育んだ歴史と文化が今も息づいています。自然と人々が共に紡いできた物語に触れ、この地の魅力を再発見してみませんか？

島前カルデラのなりたち

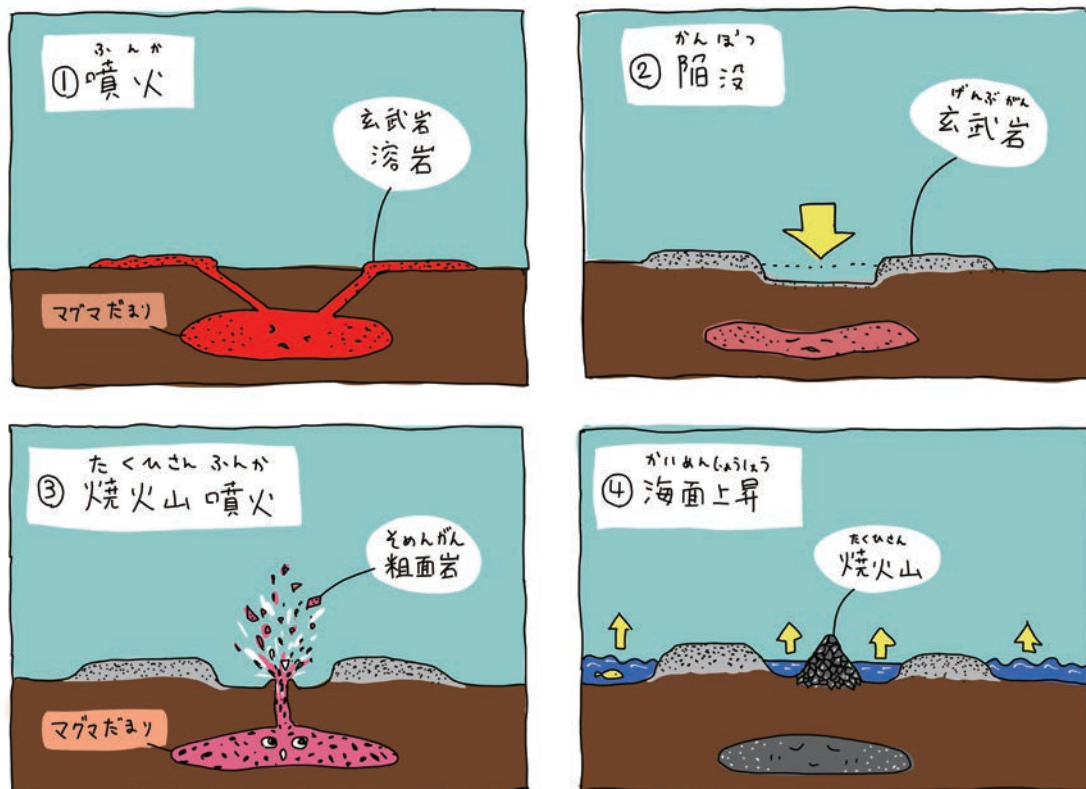
隠岐島前カルデラは、約600万年前の火山活動によって生まれたと考えられています。この地形がどのように作られたのか、少し紐解いてみましょう。

もともと隠岐島前は日本海の海底にありましたが、玄武岩溶岩の噴火（下図①）によって大地が形成されました。繰り返された噴火と中心部の陥没（下図②）により、「カルデラ地形」の原型が作られたとされています。このカルデラの外縁部分は「外輪山」と呼ばれ、現在も湾を囲む地形として残り、外洋の波や風から守っています。

その活動とは別に、中心部の爆発的な噴火で焼火山が作られ（下図③）、そのあとの海面上昇（下図④）や侵食により現在の島前の形ができたといわれています。

島前のでき方にはいくつか説がありますが、隠岐ジオパークでは今回ご紹介したモデルを採用しています。ただし、長い侵食作用のため確かな証拠を見つけるのは難しく、まだ解明されていないことも多いのです。隠岐島前カルデラには、まだ語られていない壮大な物語が眠っています。

〈イメージ図〉



外輪山に守られた港

隠岐諸島は、日本海航路の中継地として長い歴史を持ち、重要な役割を果たしてきました。中でも、外輪山に囲まれた穏やかな島前の港は、海運の拠点として欠かせない存在でした。また、中央にそびえる焼火山は「焼火権現」として知られ、航海の無事を祈る船乗りたちの守り神として信仰を集めてきました。

中世には、海士村の村上家という豪族が大型船を用いて海運業を展開し、地域経済を支えました。近世に入ると、帆船の性能向上や航海技術の進化により「沖乗り」と呼ばれる新しい航法が普及します。この航法では季節風を活用して沖合を航行し、長距離移動が可能となりました。そして隠岐の港は補給拠点として発展したのです。

島前の港にも北前船が寄港し、スルメや塩干魚、大豆といった特産品が島外に流通するようになりました。現在も隠岐のお土産として親しまれているスルメ。そのルーツをたどることで、隠岐の歴史と文化に触れてみてはいかがでしょうか？



沖乗り航法のルート

環境と共に生きる知恵



知夫里島の名垣

離島である隠岐では、昔から自給自足が欠かせませんでした。しかし、火山岩が風化してできた土地が多く、特に西ノ島と知夫里島は土地が急峻で地下水が少ないため、農作物を育てるには厳しい環境でした。一方で、夏は涼しく冬は雨が多い気候は牧草の成長に適しており、野生動物が少ない環境は放牧に適していました。

そんな環境の中、人々が生み出したのが「牧畑」と呼ばれる農法です。山を柵や石垣で区切り、牛を放牧して地力を回復させ、その後に大豆やひえ・あわ、麦を輪作する仕組みで、土地を持続的に利用する工夫が凝らされています。知夫村では牧畑を区切る石垣を「名垣（みょうがき）」と呼び、赤ハゲ山には約2キロにわたる名垣が今も残っています。これらの石垣は、牧畑の歴史と風景を今に伝える大切な遺産です。

牧畑は、限られた資源を活用し、環境と調和して生きた先人たちの知恵の証です。この知恵は、現代の私たちに何を語りかけているのでしょうか？その答えを見つけるヒントが、隠岐の風景の中に残されています。

カルデラ地形の恩恵 岩ガキの養殖

隠岐の岩ガキ養殖は、島前カルデラの地形と自然が育んだ、隠岐ならではの恵みです。1992年、西ノ島町の中上光さんが日本で初めて岩ガキの種苗生産に成功し、珍崎周辺で養殖を始めました。しかし、焼火山のふもとで育つ岩ガキに比べて身入りが劣ることが分かり、現在の波止（はし）周辺に養殖場を移しました。（図参照）

波止周辺の海は、島前カルデラの外輪山が波や風を遮り、外海のうねりを防ぐ穏やかな環境が特徴です。また、焼火山の広葉樹林から川を通じて流れる豊富な栄養が、岩ガキの成長を支えています。

こうした自然条件が織りなす環境で育つ隠岐の岩ガキは、身が引き締まり濃厚な味わいが自慢です。隠岐の自然の恵みを、ぜひ一度味わってみてください。



焼火山付近の海へ養殖場を移動

隠岐ジオパーク推進機構の活動報告

隠岐ジオパーク推進機構の活動の一部をご紹介します。

今後も地域の皆様にご参加いただける多様なイベントを計画していきますので、ぜひご参加ください。

旅行の一大祭典 「ツーリズムEXPOジャパン」にて 隠岐諸島をPR

9月下旬に東京ビッグサイトにて開催された全国の観光業関係者や旅行好きの方が集まるツーリズムEXPOジャパンに参加しました。離島を巡る「島旅」の人気の高まっている中、大自然を感じる絶景やアクティビティはもちろん、多くの神社や文化体験など隠岐諸島の魅力を宣伝し沢山の方に興味を持っていただきました。



隠岐郡小中学校教育研究会理科部会と連携した 授業づくり

8月上旬に、隠岐郡の小中学校理科の先生10名と、地域の地質資源を活用した授業づくりのためにフィールドワークと屋内研修を実施しました。研修後は各学校で授業案を持ち帰り、10月より各校の状況に合わせて地域資源を活用した授業が行われています。今後も先生方と協力し、子どもたちの学びの環境の充実に努めていきます。

大満寺山登山道と国賀遊歩道で 整備ワークショップを開催

10月下旬から11月上旬にかけて、隠岐の島町の大満寺山登山道と西ノ島町の国賀海岸遊歩道で、整備ワークショップと勉強会を開催しました。このワークショップは、自然を尊重した整備方法に取り組みながら、保全を重視した観光や整備の技術について学ぶ貴重な機会となりました。今後は、地域全体で保全活動を推進するための基盤づくりや、適切な整備の在り方について引き続き検討していきます。



大満寺山施工前



施工後



摩天崖で資材を運ぶ

参考文献 「北前船 寄港地と交易の物語」加藤貞仁 「歴史の道調査報告書」島根県教育委員会 「隠岐牧畑の歴史的研究」三橋時雄
画像提供：澤岡 祐太、一般社団法人 大雪山・山守隊 協力：なかがみ養殖場 中上光

隠岐の宝は、心に刻み、未来へつなごう。手には残さず、その美しさを次の世代へ。

〔発行元〕

(一社) 隠岐ジオパーク推進機構

Oki Islands Geopark Management Bureau

〒685-0013 島根県隠岐郡隠岐の島町中町目貫の四 61 番地

Tel: 08512-2-1577 / 08512-3-1321 (総務)

Fax: 08512-2-1406 / 08512-3-1322 (総務)

E-mail: info@oki-geopark.jp

URL: oki-geopark.jp/



APGN
ASIA PACIFIC
GEO PARKS
NETWORK



unesco
Global Geopark